



研究者名※	根津 知佳子	学位※	教育学修士(東京学芸大学)
所属※	家政学部 児童学科	職名※	教授
連絡先	nezuc@fc.jwu.ac.jp		
URL	http://www.chikakotsukioka.com		
researchmap※	https://researchmap.jp/chikako_tsukioka		
研究分野※	音楽教育学・芸術療法(音楽療法)・高等教育(教員養成・保育者養成)		
研究キーワード※	音楽的経験 音楽的対話 創造的音楽活動 音楽的自己 アクションリサーチ 感性		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「パフォーマンス評価を活用した音楽学習における支援の類型化」(科学研究費補助金・基盤C・研究代表 2020年～2022年度) ・「ウィリアムズ症候群のための“支援プログラム”の開発～投影法心理検査を基盤として～」(日本女子大学総合研究所研究課題76 2020年～2021年度) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本芸術療法学会認定芸術療法士 ・日本音楽療法学会認定音楽療法士 ・参加型音楽会『音楽の森』の企画・実施(2011年～) 		
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・日本感性工学会 かわいい感性デザイン賞(企画賞)(2021年9月) 造形活動と創造的音楽活動の協働 		

研究領域	(SDGs)
------	--------------------

研究テーマ※	音楽的対話とアイデンティティの研究
--------	-------------------

概要※
(概ね1000字以内)
(写真・グラフ等自由)

【研究の背景・目的・内容】
 創造的音楽活動におけるパフォーマンスには、個々の内面や生活世界が映し出される。これまで、実践者と対象者による「音楽的対話(非言語的交流)」の変容をライフステージ全体で捉えるためのモデルを検討してきたが、近年、「音楽的対話」がアイデンティティ形成にどのように関わっているのか、2つの理論的枠組みに依拠した研究を行っている。まず、文化・歴史的活動理論を提唱しているユーリア・エンゲストロームの「拡張的学習」のモデルによって、対象者の音楽的経験や学びがどのように拡張するのか、また、他者といかに音楽文化を共有するのかを可視化できるようになった(図1)。また、エディス・ヒルマン・ボクシルの「覚識の連続体」のモデルによって、前言語段階の対象者とのパフォーマンスの分析が可能になり、対象者理解の幅を広げることができた(図2)。

【応用例、研究の展望】
 現在、「図と地の分化がアイデンティティ形成に関与する」というボクシル理論に焦点を当てた実践研究を行っている。総合研究所の課題研究69により、「覚識の連続体」の応用例を提示することができた(図2)。

図1. 音楽的経験の拡張(根津、2019)

図2. 「覚識の連続体」の応用例(根津ら、2020)

「感性」「音楽的経験」「パフォーマンス評価」などをキーワードとして2002年以降継続的に遂行している科学研究費補助金による研究について現在は、カンボジアの小学校の合奏支援に関して2つのモデルを活用し、異文化におけるアイデンティティ形成に関する研究を進め、日本からの鍵盤ハーモニカの寄付や音楽教育の普及に関して、SDGsの3,4,12の観点で検討している。

	<p>【研究方法の特色】</p> <p>研究方法の特色として、①「音楽教育と芸術療法(音楽療法)の融合」、②「アクション・リサーチ的アプローチ」、③「高等教育研究(教員養成・保育者養成)」の3点が挙げられる。言うまでもなく、音楽教育と音楽療法の目的は異なるが、音楽に内在する3つの機能(生理的・心理的・社会的作用)を重視した後者の手法を活用することによって音楽教育を見直すことができるのではないかと考えている。それは、音楽的経験の質を改善することを意味している。また、音楽を専門としていなくても実践可能な方法論として「音楽療法的アプローチ」を通信教育「芸術支援プログラム」等で提示している。</p> <p>②③については、「アクション・リサーチ」の手法を援用し、実践現場におけるニーズに基づいた継続的な協働している点を実践研究の特徴としている(根津、2021)。特に、特別支援学校、特別支援学級における実践を大学での研究活動と往還させることによって、実践者の研修機能や養成段階の学修としての機能を持たせている。①～③の総合的な実践として、2001年度より継続しているウィリアムズ症候群の患児・者と家族のための音楽キャンプがある。</p>
<p>本研究関連 特許・論文等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・根津知佳子・吉澤一弥・和田直人・角藤比呂志「ウィリアムズ症候群の視空間認知とパフォーマンス」『日本芸術療法学会誌』第51(2) pp.44-53 2021年 ・根津知佳子・吉澤一弥「音楽療法における即興技法―“覚識の連続体”に着目して―」『日本音楽心理学音楽療法研究年報』第49巻 pp.31-38 2021年 ・根津知佳子 コロナ禍における“集団的即興”『活動理論研究』第6号 pp.13-25 2021年 ・根津知佳子・川見夕貴・和田朝美「音楽療法的アプローチの可能性と課題」『日本女子大学紀要家政学部』第67号 pp.27-36 2021年
<p>共同研究・外部機関との連携への期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援が必要な幼児・児童を対象とした音楽活動の協働 ・創造的音楽活動の実践(保育・幼児教育など)